

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 6 年 3 月 13 日

公表:令和 6 年 3 月 18 日

事業所名 い〜まCrea大治 I

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		個別指導訓練室が2つあり、密を避けることができる。	コロナがまだ流行っているので環境設定を引き継ぎ検討していく。
	2	職員の配置数は適切である	○		基準以上配置している。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		スロープもあるため、段差が無いよう配慮されている。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		目標設定を行い、半年ごとに面談を実施し、振り返る時間を設けている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		アンケート集計後に話し合う機会を設けている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページに掲載されている。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		第三者による外部評価は行っていない。今後、実施するか検討していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		社内研修でサービスの質の向上に向けて月1回西エリア勉強会を開いている。	定期的な社内研修の実施、外部研修へも参加している。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		面談や日々の相談を通して、課題点を分析し、計画を作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		毎日のミーティングで日々の活動内容について話し合っている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		ねらいは同じでも内容に変化を持たせて子どもが飽きないように工夫している。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		活動時間に合わせて、取り組みのコマを増やして支援している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		子ども一人ひとりに必要課題に応じて個別と集団活動を組み合わせている。	年齢によっては個別指導を集団と組み合わせで行っている。また、集団活動も個々の将来を見据えて内容を検討して実施している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		日案を作成し、確認している。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			退勤時間の都合上、全員参加でその日のうちに実施することができていないが、翌日ミーティングの際に振り返りを行っている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			日々の活動内容を記録に残し、何か変化が見られた際には特記事項に記載してモニタリング時期に振り返りを行っている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			モニタリングを半年に1度行い、計画の見直しを行っている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○		複数の内容を組み合わせ合わせて活動している。	

関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		子どもの状況を理解している主担当が参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		保護者を通じて下校時間の確認を行っている。必要に応じて学校と直接時間確認を行うこともある。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		対象者はなし。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○		今年度は対象者がいません。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		移行前に担当者会議を行い、情報を提供している。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○		近隣にセンターが設立されたため、自立支援協議会等で連携を図っていきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		機会を設けていない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		積極的に参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		必要に応じてメール、電話などでお伝えをしている。	
保護者への 説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		面談以外に、必要に応じて子どもとの関わり方について助言を行っている。	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		利用契約時に紙面に沿って説明を行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		保護者に面談時以外でも、相談できる旨を伝えており、気軽に相談できるよう努めている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		父母会等の活動は行っていない。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情があった場合は迅速に対応し、情報の共有、再発防止に努めている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		会社の広報誌「Andante」に事業所の情報をのせて発行している。	
	35	個人情報に十分注意している	○			スタッフ向けには年1回同意所をとり、話をしている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		視覚教材の活用など一人に合ったツールを活用している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	地域に開かれた事業所は行っていない。	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		コロナ対応については概ね理解されてきた。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			毎回計画に沿って実施している。日々の訓練以外に非常食体験を行った。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			事業所で一人研修を受け、その後他スタッフに向けて研修を行っている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			事前に説明を行い、個別支援計画書に記載している。身体拘束を行った際には、適切に記録を取っている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			アレルギーについては契約時に必ず確認を行っている。提供するおやつについても確認している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			事例があった際には事業所全体で共有している。